

胃がん・肝細胞がん予防サーベイランス体制検討ワーキンググループ

(令和2年度)

胃がん・肝細胞がん予防サーベイランス体制検討ワーキンググループ報告書

広島県地域保健対策協議会 胃がん・肝細胞がん予防サーベイランス体制検討ワーキンググループ

WG長 茶山 一彰

胃がん・肝細胞がんの予防のためのサーベイランス体制の構築を検討するため、今年度、がん予防のためのスクリーニング検査として、肝炎ウイルス検査体制をベースにヘリコバクター・ピロリ菌検査を組み合わせた住民対象検査（モデル事業）を県内3市町で実施した。

肝炎ウイルスに関しては田中委員より下記のように報告された。

本検査のモデル地区は安芸太田町、呉市、尾道市とし、安芸太田町では20歳以上の全町民5,358名を、呉市と尾道市では住民基本台帳を元に層化無作為抽出法により選定した3,000名を対象とした。

このうち、受検者（3市町合計1,649人）における肝炎ウイルス陽性率は、安芸太田町がB型0.5%・C型0.5%、呉市がB型0.9%・C型0%、尾道市がB型2.0%・C型0%であった。この数値をもとに、肝炎ウイルス感染状況のElimination（排除）到達度について血清疫学的に評価した結果、B型肝炎については安芸太田町が准到達地域、呉市、尾道市では未到達地域と判定され、C型肝炎については3市町とも准到達地域と判定された。呉市、尾道市ではC型肝炎陽性者が0人であったものの、すでに自覚している陽性者は受検しないという選択バイアスの影響と、感染に気づいていない陽性者の掘り起こしが

進んでいる可能性が示された。今後、Elimination到達度別に、受検治療促進・フォローアップの課題を抽出し、Eliminationロードマップを提示予定である。

ヘリコバクター・ピロリ抗体検査については、肝炎ウイルス無料検査の受検者のうち、希望者全員（1,592名）に実施した。ピロリ抗体陽生率は、安芸太田町で49.4%あり、呉市（35.6%）、尾道市（32.3%）よりも高率であった。また、3市町とも年齢に伴い陽性率が高くなっていったが、20～30代の若年者においても1～2割程度陽性が見られ、さらに若年層では除菌治療歴があまりない傾向が見られた。抗体陽性者634名に対しては、「ピロリ菌検査用精密検査者追跡票」を送付し、医療機関に対して精密検査結果のフィードバックを依頼した結果、3月8日までに331件の回答（回収率52.2%）があり、早期胃がん1人、早期胃がん疑い2人が今回の検査をきっかけに見つかった。

委員からは、若年世代のピロリ菌感染率は低くなく、また除菌治療に繋がっていないことが示されたことをふまえ、対策の必要があるとの意見が複数寄せられたが、事業化については予算の問題等クリアしなければならない課題があることも指摘された。今後は最終的な調査分析をもとに、さらに検討を進めることとなった。

広島県地域保健対策協議会 胃がん・肝細胞がん予防サーベイランス体制検討ワーキンググループ

WG長	茶山 一彰	広島大学大学院医系科学研究科消化器・代謝内科学
委員	相方 浩	広島大学大学院医系科学研究科消化器・代謝内科学
	伊藤 公訓	広島大学病院 総合内科・総合診療科
	加藤 勇人	広島県地域保健医療推進機構総合健診センター
	吉川 正哉	広島県医師会
	田中 純子	広島大学大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学
	玉木 正治	広島県医師会
	豊田 義政	広島県健康福祉局がん対策課
	濱井千年世	広島市健康福祉局保健部
	藤川 光一	広島県医師会
	光野 雄三	呉市医師会
	三宅 規之	広島県医師会
	山口 まみ	広島県健康福祉局薬務課
	横山 行男	横山内科医院
	吉原 正治	広島大学保健管理センター